

ウナギ及びイセエビの種苗生産技術の開発（拡充）

【 1 8 8 (1 2 9) 百万円】

対策のポイント

種苗の安定確保が困難なウナギ及びイセエビの種苗生産技術を開発します。特に、ヨーロッパウナギの国際的な取引規制（ワシントン条約）により、中国からのウナギの供給量減少が避けられないことから、シラスウナギの安定生産・量産化技術の開発を強化します。

（ウナギ・イセエビについて）

我が国のウナギ生産量の97%が養殖によりますが、その種苗であるシラスウナギは100%を天然に依存しています。また、イセエビについても全て天然資源の漁獲によるものです。

政策目標

水産資源の安定供給、国内養殖産業の振興に貢献

< 内容 >

1．良質卵の安定大量生産技術の開発（拡充）

天然ウナギ親魚の生育環境・餌料を解明し、人工生産による優良親魚からの良質卵安定供給システムの開発をします。

2．量産のための飼育システムの開発（拡充）

量産化に適したウナギ幼生の新規飼餌料、環境等飼育システムの開発をします。

3．幼生の正常な育成のための最適餌料の開発

イセエビ幼生の消化管内容物のDNA判別により幼生の餌を解明し、生残率向上のための最適な餌料を明らかにします。

4．幼生の生残率に及ぼす飼育環境の影響解明及び最適化

水質、物理環境等の環境要因がイセエビ幼生の生残率に及ぼす影響を解明し、最適な飼育環境の条件を明らかにします。

< 実施主体等 >

実施主体 民間団体等
実施期間 平成17年度～平成23年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究開発官（環境）（03 - 6744 - 2216（直））]

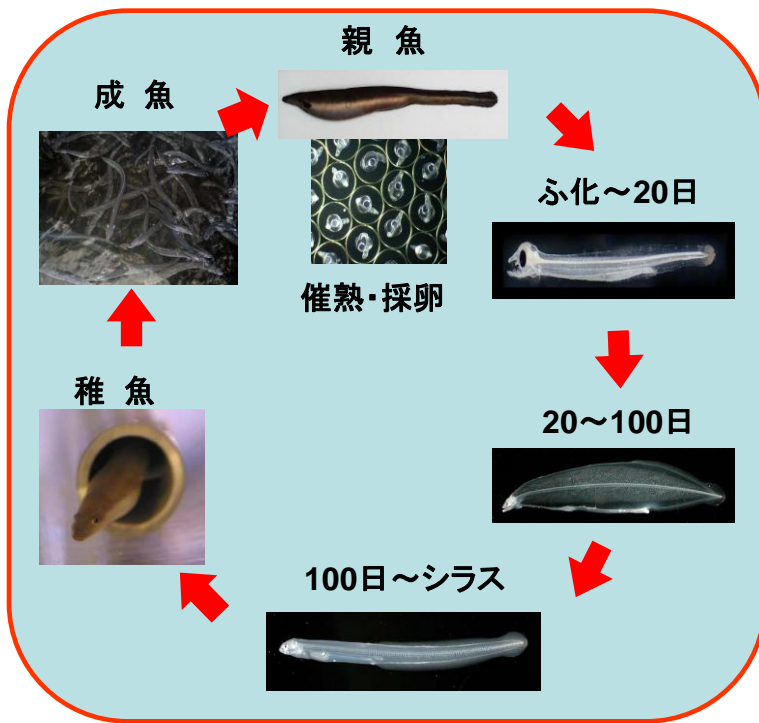
ウナギ及びイセエビの種苗生産技術の開発

種苗の安定確保が困難であるウナギ及びイセエビについて、安定生産・量産化技術の開発を通じ、国民への安定供給、国内養殖産業の振興等に資する。

〔主な研究内容〕

ウナギ種苗生産技術の開発

シラスウナギの大量生産に不可欠な、優良親魚の育成技術と量産のための飼育システムを開発



完全養殖の実現

イセエビ種苗生産技術の開発

適正な飼育環境、栄養生理、摂餌生態を解明し、幼生の生残率を向上させ健全に育成する技術を開発



イセエビフィロソーマ幼生



稚エビ

【ウナギ種苗生産技術の開発】(～23年度)

- ・養殖による優良親魚率を5倍以上に向上
- ・シラスウナギまでの生残率を10倍に向上

【イセエビ種苗生産技術の開発】

- ・稚エビまでの生残率を10倍に向上